

1

麻酔博物館改修事業に携わって

牧野 洋¹⁾, 土手健太郎²⁾¹⁾ 浜松医科大学麻酔・蘇生学講座, ²⁾ 愛媛県立中央病院集中治療部

2011年に開館した麻酔博物館は10周年を迎える2021年に展示内容の大改修が行われた。我々は麻酔博物館館員として改修事業に携ったので、その経験と経過とを報告する。

■麻酔博物館の概要

麻酔博物館は、神戸市の日本麻酔科学会事務局に隣接して開設されている。麻酔博物館は前身の麻酔資料館を経て、2011(平成23)年5月19日に開館した。

麻酔博物館の目的は、麻酔科関連医療について今日の医療が確立されるまでの歴史的展示物、また最新の麻酔機器を公開するとともに、貴重な文献・図書を収蔵し、正しい医療についての知識の普及を図るためである。内科、外科など数ある診療科(標榜科)の中でも、このようなまとまった資料収蔵・公開の施設を公益法人である学会が運営しているのは国内で麻酔科学会のみである。麻酔博物館の運営を担うのは、公益社団法人日本麻酔科学会の常置委員会である麻酔博物館委員会である。運営に助言を与えるために、麻酔博物館館員ボードがアドホック委員会として存在する。収蔵品の多くは国内の学会会員や病院からの寄贈品であるが、海外の麻酔科医や博物館からも貴重な品の寄贈を多数受けている。日常的な来館者対応を行うのは、麻酔科学会事務局員だが、団体見学の予約や要請のある場合には、館長をはじめとした館員が説明対応にあたる。業界団体の視察旅行や医療系学校の卒業旅行に対して説明対応をおこなった実績がある。

■改修のポイント

10年目の大改修は2019年5月からコンセプトの立案をスタートし、途中コロナ禍による工事遅れもあったが、2021年6月に工事が完了した。

①わかりやすい展示：日本麻酔科学会は公益社団法人化したため、従来からの麻酔博物館の使命である「日本の麻酔の歴史を正しく後世に残す」ことに加え、「麻酔科医が果たしてきた周術期安全における役割と貢献を社会に向けて紹介する」ことをテーマとし、より多くの国民の皆様にも麻酔科医の役割について理解していただくための展示に心を砕いた。具体的には、以前は展示物の説明書きが麻酔を専門とする医師向けであり、一般客にはわかりにくいという指摘があった。今回の改修では、大型モニターを導入することで、一般向けと専門家向けに説明内容を区別した。また、オープニングシアターを設け、麻酔科医の手術室における役割について説明する動画を流すなどの工夫を行った。

②展示物の充実：2011年の開館以降に麻酔博物館に寄贈された品の多くは収蔵庫に収められたままになっていたが、今回の改修に際し、収蔵されていた逸品を全て展示した。また、華岡青洲コレクターの方からプロの目に堪えられる逸品を寄託していただき、展示した。

公益社団法人である麻酔科学会が開設する博物館として、広く国民の皆様にも麻酔について知っていただくことのできる施設としての役割が強化できたと考えています。神戸にお越しの際には是非お立ち寄りください。

麻酔博物館

場所：神戸市中央区港島1丁目5番2号 キメックセンタービル3階

アクセス：ポートライナーにて医療センター駅下車すぐ

開館時間：平日10:00~16:00

入館料：無料